Validation of factors associated with difficult emergency transport in Tokyo under COVID-19 pandemic era: Retrospective observational study

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2024-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大杉, 一平 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003556

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2749 号

Validation of factors associated with difficult emergency transport in Tokyo under COVID-19 pandemic era: Retrospective observational study

COVID-19 流行時の東京における救急搬送困難事例の要因に関する検証：後方視的観察研究

大杉 一平（おおすぎ いっぺい）

博士（医学）

論文内容の要旨

この研究は、Coronavirus disease 2019 (COVID-19)流行後の救急搬送困難な事例の原因を明らかにし、救急医療の質を向上させることを目的とした。東京では救急搬送困難事例は「東京ルール（TR）」と呼ばれており、COVID-19 流行前後の原因を比較・検討した。東京の順天堂大学練馬病院で 2010 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの期間に当院に TR 事案として搬送されたすべての患者を対象とした後ろ向き観察研究を実施した。患者登録後、基本情報、人口統計学的特性、臨床及び検査結果の特性が収集された。2020 年 1 月 15 日以前を COVID-19 流行前、2020 年 1 月 15 日以降を COVID-19 流行後と定義した。

主な評価指標は 30 日間の死亡率とした。合計で 3988 人の患者が登録され、COVID-19 流行前が 2005 人、COVID-19 流行後が 1983 人であり、30 日間の死亡率はそれぞれ 0.5%と 1.1%だった。各項目について COVID-19 流行前後を比較した結果、年齢、搬送時間、心拍数、拡張期血圧、体温、脈拍酸素飽和度、呼吸症状、合併症（高血圧、糖尿病、脂質異常、精神疾患）、救急隊の選定科目（脳神経外科、整形外科）、飲酒関連、生活保護、転機（病棟入院と退院）、および 30 日間の死亡率において有意差を認めた。

COVID-19 流行前後において TR 事案となる原因が変わったことが示唆された。今後のさらなる研究が必要であり、TR 事案の正確な状況を明らかにする必要がある。